

平成25年度事業報告

I. 研究発表会、講演会等の開催

1. 日本心理学会第77回大会

期日：平成25年 9月19日（木）—21日（土）

会場：札幌コンベンションセンター・札幌市産業振興センター

主催校：北海道医療大学（大会会長：坂野雄二教授）

2. 公開シンポジウム

(1) “社会のための心理学” シリーズ

(a) 負の連鎖を断ち切るには

第1回 脳の可塑性の視点から児童虐待問題を考える（6月28日；東京）

第2回 家族支援の観点から児童虐待問題を考える（11月17日；京都）

(b) 医療現場における心理学

第1回 認知行動療法が切り開く地平（10月20日；東京）

第2回 さまざまな領域での実践から（11月17日；大阪）

(c) 教育現場における心理学

第1回 心理学から見た学習意欲と学習力の向上（7月14日；鹿児島）

第2回 心理学は授業・学習改善に何ができるか（8月22日；東京）

(d) 裁判員制度をめぐる心理学的諸問題——何が課題か、どう対処するか——

第1回（6月8日；東京） 第2回（11月9日；京都）

(e) 心理学における神話は真話か？

平成26年度実施

(2) “心を科学する心理学” シリーズ

第1回（11月30日；東京） 第2回（2014年3月8日；名古屋）

(3) “基礎心理学の展開” シリーズ

(a) 錯視の科学（11月16日；東京）

(b) なぜおいしい？ なぜ食べ過ぎる？——食行動の心理学——（12月8日；京都）

(4) 高校生のための心理学講座

全国12か所（北海道，東北，関東Ⅰ・関東Ⅱ・関東Ⅲ，中部Ⅰ・中部Ⅱ，近畿，

中国・四国，九州・沖縄Ⅰ・九州・沖縄Ⅱ・九州・沖縄Ⅲ）

3. 第77回大会時日本心理学会企画シンポジウム等

(1) 公開シンポジウム

(a) 認知の個人差について考える

(2) ICP2016関連シンポジウム

(a) 社会性の進化と発達

(3) 機関誌等編集委員会企画講習会

(a) 英語論文投稿への道——実践編（2）——

(4) 震災復興関連企画

(a) 災害復興支援を考える——2012年度第2回東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究 採択グループ報告——

(5) 教育研究委員会企画シンポジウム

(a) Web心理学ミュージアムの挑戦：サイエンスコミュニケーションの視点から

II. 学会誌, 研究報告書及びその他の資料の刊行

1. “心理学研究” 第84巻第1号—第6号を刊行した。
2. “Japanese Psychological Research” Vol. 55, No. 2-No. 4 & Vol. 56, No. 1を刊行した。
3. “心理学ワールド” 第61号—第64号を刊行した。
4. “心理学叢書” の刊行
第1巻“思いやりはどこからくるの?—利他性の心理と行動(編:高木修、竹村和久)”を刊行した。

III. 研究及び調査の実施

1. 専門家としての力量形成に関する調査・研究
平成26年度継続
2. 大学の心理学教育に関する調査・研究
“大学における心理学教育調査”を実施した。
3. 非専門家の心理学リテラシーに関する調査・研究
平成26年度継続

IV. 国内の学術団体との学術研究協力

1. 日本学術会議
以下の公開シンポジウムを, 日本学術会議心理学・教育学委員会の各分科会と共催した。
“負の連鎖を断ち切るには” (社会のための心理学分科会)
“教育現場における心理学” (社会のための心理学分科会)
“裁判員制度をめぐる心理学的諸問題——何が課題か, どう対処するか——”
(社会のための心理学分科会・法と心理学分科会)
“医療現場における心理学” (健康・医療と心理学分科会)
日本学術会議主催“安全工学シンポジウム2013”に共催した。
2. 日本心理学諸学会連合
本会から3名, 理事として参加している。
会費および認定心理士承認料を支払った。

V. 国際的な学術研究協力

1. 国際心理科学連合
分担金を支払った。
また, ICP2016開催に向けて, ICP2016組織委員会との間で連絡協力を行った。
2. 国際テスト委員会
分担金を支払った。
3. 各国心理学会との研究協力
アメリカ心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。
オーストラリア心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。
中国心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。
英国心理学会 MOU(協力協定)を結んだ。
韓国心理学会 協力協定に基づき, 韓国心理学会大会で日韓合同企画シンポジウムを開催した。
また, 日韓大会で両国の学会員が研究発表を行った。
マレーシア心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

南アフリカ心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。

台湾心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。

スウェーデン心理学会 MOU（協力協定）を結んだ。

フィリピン心理学会 MOU（協力協定）を結んだ。

インドネシア心理学会 MOU（協力協定）を結んだ。

VI. 研究の奨励及び研究業績の表彰

1. 公益社団法人日本心理学会優秀論文賞の選考・授与

平成24年度刊行の“心理学研究”および“Japanese Psychological Research”（特集号を除く）掲載の原著論文のうちから選考委員会において受賞論文を決定した。平成25年度会員集会時に授与式を行った。

<優秀論文賞>

(a) 避難口誘導灯に通過後の情報を付加することの効果

著者：田中 孝治・加藤 隆（関西大学）

掲載：心理学研究第83巻第3号

(b) 虚記憶が隠蔽情報検査に及ぼす影響

著者：財津 亘（富山県警察本部刑事部科学捜査研究所）

掲載：心理学研究第83巻第4号

(c) 両眼固視中の片眼におけるコントラスト感度の低下

著者：小澤 良・鬢櫛 一夫（中京大学）

掲載：心理学研究第83巻第6号

2. 公益社団法人日本心理学会国際賞の選考・授与

国際賞選考委員会にて、国際賞授賞者を選考し、平成25年度会員集会時に授与式を行った。

<特別賞>

今田 寛（関西学院大学名誉教授）

高根 芳雄（University of Victoria）

山岸 俊男（玉川大学脳科学研究所）

<奨励賞>

河邊 隆寛（日本電信電話株式会社 NTTコミュニケーション科学基礎研究所）

実藤 和佳子（九州大学高等研究院）

村山 航（University of California）

3. 公益社団法人日本心理学会優秀発表賞の選考・授与

第77回大会一般研究発表のうち、選考対象となることを希望した発表について、代議員及び名誉会員が審査を行い、10件に特別優秀発表賞を、21件に優秀発表賞を授賞した。

4. 研究集会等への支援

28件の研究会へ助成を行った。

5. 国際会議参加者への旅費補助

27名の国際会議参加者への旅費補助を行った。

VII. 認定心理士の資格認定及び研修

1. 公益社団法人日本心理学会認定心理士資格の審査と授与

平成26年3月31日現在、総件数3,346件を審査し、3,128名を合格、66名を不合格、152名を保留とした。

必要な手続を経て資格を取得した者は3 035名であった。

2. 公益社団法人日本心理学会認定心理士研修会

I-2. 公開シンポジウムと連動

3. 教科書の刊行

平成26年度継続

VIII. その他目的を達成するために必要な事業

1. 心理学の普及・啓発のための広報活動

心理学ミュージアム展示室に掲載する作品を公募した。応募作品から優秀作品賞授賞作品を選考し、平成25年度会員集会時に授与式を行った。

<最優秀作品賞>

「音」を食べる——多感覚知覚——

著者：坂元 亮哉（関西大学心理学研究科）

<優秀作品賞>

“身体を温める”と“心も温まる”——身体化認知——

著者：山本 佑実（関西大学心理学研究科）

2. 心理学の歴史的資料の保存・調査

古典的機器の調査・撮影を行った。

名誉会員へのオーラル・ヒストリー聞き取りを行った。

3. 倫理規程の継続的な検討・倫理問題の解決

4. 東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究の助成

第3回“東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究”を公募し、5件に助成を行った。

5. 選挙の実施（理事長・常務理事選挙）

理事長・常務理事選挙を実施した。

6. 第31回国際心理学会議（ICP2016）組織委員会

ICP2016開催に向けて、所管事項を審議した。

7. その他

新会員管理システムを構築し、新たに会員用の“JPAマイページ”を公開した。

以上